

# 介護続けたいけど 苦渋の移送



よいか判断に苦慮している。ただ、断水の長期化などで、施設や避難所からの移送は今後も増える

可能性がある。

(吉備彩日)

能登半島地震で建物や設備などに被害があった特別養護老人ホーム「長寿園」(石川県珠洲市)。

21日正午ごろ、入所者の県南部の施設への移送が進められていた。

「寒くはないですか」

「(昇降機が)動きますけど、怖くないですかね」

入所者は声をかけられながら、座る姿勢が保てる人は車内のいすに腰かけ、難しい人は車いすからストレッチャーに乗せられて運び込まれた。

この日、災害派遣医療チーム(DMAT)や民間救急のメンバーによって移送された入所者は18人。元々約1000人が暮らしていたが、被災後に順次、各地の施設へと移った。残るのは20人ほどとなった。

「ここにおっても、ケアが提供できないから」施設長の中村充宏さん(54)

は悔しさをにじませる。

建物は倒壊を免れたが、壁にはひびが入り、浄化槽などの設備は破損。断水で入浴もできない。このままでは入所者の衛生が保てないと避難を決断した。

「私も、移したくはない。できればそばにおってほしいし、今までお

## 送り出さない施設も

一方、移送しない選択をした施設もある。

入所者100人以上が暮らす能登北部の高齢者施設は、大きな被害を受け、断水状態が続くが、とどまると決めた。

人数が多いため、受け入れ先や搬送の調整が難しいことや、移送にかかると身体への負担、移った先に服薬管理などの情報がちんと引き継がれるのか、といった不安が

世話してきた人をここでお世話したい。でも、それはこっちのエゴ」

約70人の職員のうち、19人が被災して出勤不能に。出勤する職員も避難所から通ったり、車中泊をしたりしている。水道が復旧すれば施設を再開させたいと考えているが、めどはたたない。

あったという。

厚生労働省によると、能登半島地震では、介護が必要な高齢者1千人程度が、入所施設から他施設や病院に移送された。

移送先は石川県の周辺自治体だけでなく、遠く離れた愛知県や岐阜県などにも及ぶ。移送はそれ自体が高齢者の負担となる可能性があり、環境変化なども伴う。送り出す施設の側も、どうすれば

地震による被害が大きかった高齢者施設から、石川県内の別の施設に入所者を移送する様子(画像を一部加工しています) 21日、同県珠洲市にある特別養護老人ホーム「長寿園」

## 能登 入所者1000人 施設・病院へ